



研究テーマ： 社会人基礎力育成に向けた地域連携教育プログラムの開発

研究者： 河村 裕次

KAWAMURA Yuji

(経営経済学部経営経済学科 准教授)

【研究・開発の目的】

近年では、社会で必要とされる職業能力について、専門力と基礎力（どんな職種・業種であっても社会で働くうえで不可欠となる能力）の双方を伸ばしていくことにより社会的思考力を養っていくことが教育機関には求められている。しかしながら、「企業が学生に求める能力要素」と学生が「企業で求められていると考える能力要素」には大きな差異が見られることを経済産業省は指摘している（『大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査』2010[平成22年]6月）。これらのミスマッチングは、企業と学生間のみならず、学生を育成する大学と企業間においても、育成する社会人基礎力と学生に求める社会人基礎力で差異がうまれていることが推測される。そこで、企業等に求められる社会人基礎力を明らかにするとともに、その求められる社会人基礎力育成に向けた教育プログラムを構築する。

【研究のきっかけ】

本学経営経済学部経営経済学科こども・福祉マネジメントコースでは、学生が主体となった地域づくり支援（活動例：豊後大野市市民交流の場・楽らく広場「ひょうたん」（千歳町）の活動サポート）等を行ってきた。この地域づくり支援活動に参加した学生と参加をしていない学生との社会人基礎力の違いについての調査（活動参加者10名、非参加者5名）において、主観的基準による自己評価（その時々で異なる評価基準）ではなく、客観的基準による自己評価（一定した評価基準）への変化の様子をうかがうことができた。本研究では、卒後の社会においてより適用していくために、企業等で求められる社会人基礎力の育成に向けた教育プログラムの開発を試みた。

【研究・技術の概要】

本研究では、経済産業省の社会人基礎力評価基準票（発揮できた例）をもとに作成したアンケート調査票をもとに、学生及び企業の採用担当者に調査を行い、学生の現時点の主観的社会人基礎力及び企業等で求められる社会人基礎力の指標化を試みる。それらの指標をもとに2者間平均値の差について検定（t検定）を行い、現時点で学生に不足している社会人基礎力を明らかにし、その能力を育成するための教育プログラムの検討を行う。

【研究・技術の強み】

一般的に先行研究等で用いられている社会人基礎力尺度（質問用紙）は、1能力1質問で構成されていることが多い（例：「主体性」についてあてはまるものを選んでください）。本研究で用いる社会人基礎力尺度（質問用紙）は、36項目で構成されており（1能力について3つの質問項目）、回答している質問項目がどの能力に該当するのかを推測しにくいようになっている。また、質問項目は具体的な行動をもとに作られており、社会人基礎力についてより精度の高いデータを得ることが期待される。

【今後の展開】

本来社会人基礎力は教育機関での教育プログラムのみで完結するものではなく、本来の趣旨（「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」）の通り、卒後の職業人としての評価・検証が求められるものである。そのため、今後教育機関での活用・検証にとどまらず、企業での新人研修及び人事評価等において活用していくことが可能であると考ええる。

【今後の課題】

上述したように、社会人基礎力は職場や地域社会で様々な人と仕事をしていくために必要な基礎的な能力であり、その能力を測る手法について本研究で一定の成果が得られたと考える。しかしながら、今後測った社会人基礎力をどのように育成していくのかの研修プログラムや人事評価への反映方法等が普及に向けた重要な課題であると考ええる。

【その他の情報】

活用した助成金：日本文理大学 教育改革推進経費（平成28年度）

【地域・企業へのメッセージ】

本研究室では、これまでの行ってきた研究（地域における子育て支援等）に加え、人材育成の可視化とプログラムの構築について積極的に取り組んでいきたいと考えています。企業や福祉施設・機関の皆様のお力を借りながら、地場産業や大分の地域福祉を支えていく人材の育成に寄与できればと考えています。